

1 展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。  
 市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行います。  
 市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かく対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげます。

(1) 自然展示

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●リアルタイムな情報発信と標本等展示資料の定期的な入れ替えによって展示を更新するしくみを確立</p> <p>●展示と連動した自然ワークショップの実施など、体験型の展示の充実</p>	<p>①生田緑地の自然情報の発信</p> <p>②新たな自然史資料による常設展示の更新</p> <p>③企画展「川崎の生きもの」の開催</p>	<p>①生田緑地の自然について、日常的に観察・撮影した写真等のリアルタイムな情報発信（受付横「緑地案内ボード（緑地マップ）」を活用）を定期的実施し、2週に1回程度の頻度で更新した。また、SNSを33回更新し、自然情報を紹介した。</p> <p>②生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真キャプションとともに2回更新し、計16点を展示した。また、新たな展示として、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップコーナーにて展示し、適宜更新した。</p> <p>③川崎市青少年科学館開館50周年を契機に制作された「川崎の生きもの」の刊行を記念して、「川崎の生きもの」に掲載されている川崎の自然環境、川崎に生息している生きものを解説パネルや写真、標本を活用して来館者延べ5,215人に紹介した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>来館者や市民にむけた定期的な自然情報の発信、展示物の更新を継続する。</p>	<p>●来館者に向けた生田緑地の自然情報の発信を定期的に行った取り組みを評価する。四季だよりなどはビジュアルセンターやHPなどでも紹介願いたい。</p> <p>●概ね、計画通りに実施することができた。</p> <p>●SNSの発信回数や展示更新回数、点数が、高く評価されるべき数字かどうか、計画からは読み取れない。何事にも数値目標が必要だとは考えていないが（目標設定の方法にも課題があることが多い）、単純は数字としては、さらに積み上げられるように思う。とは言え、現状の計画に対しては上記評価となる。</p> <p>●SNS活用の手法や方向性にもよるが、年間33回の更新回数は僅少ではないか。単純な比較として、日本民家園での更新度合いが比較対象や指標になろう。紹介内容も、専門機関として不十分な内容が多かったと記憶する。「四季だより」の掲示のあり方も、すでに指摘したと記憶するが、四季との季節性から妥当でないものがあつたのではないか。労力を惜しむことなく、きめ細かく周到に実施してほしい。</p> <p>●着実な活動を見せている。</p> <p>●R2年度の緑地マップの情報発信の定期更新頻度は週1回に対し、R3年度は2週に1回と減少しているのは残念だが、その他の方法で情報発信の機会を増やす機会を設けられたことは評価できる。</p> <p>●展示の更新を継続的に行うことができた。</p> <p>●リアルタイムの情報発信を定期的にしたことは評価できる。</p> <p>●「川崎の生きもの」は地域に密着した企画展であり、高く評価できる。</p> <p>●生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真キャプションとともに2回更新し、計16点を展示したことはよかったと思う。</p> <p>評価：B</p>

## (2) 天文展示

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>● 新型メガスター投影システムやアストロテラスと連携した新たな川崎方式の確立</p> <p>● プラネタリウムの番組やアストロテラスでの星空観察のプログラムと連動させた発展的な内容の展示の実現</p>	<p>① 毎月テーマを変えた一般向け番組の制作、投影</p> <p>② 子ども向け番組の投影、新番組の制作</p> <p>③ 星空ゆうゆう散歩の実施</p> <p>④ ベビー&amp;キッズアワーの実施</p> <p>⑤ 学習投影の実施</p> <p>⑥ 天文に関する展示</p>	<p>① 10作品の一般向け番組を制作、投影した。また、50周年記念事業として前年度に制作したフュージョン新番組「過去と未来への旅」を4月29日から一般公開し、年間を通じて投影した。</p> <p>② 土日、祝日等に子ども向け投影を実施。新番組を制作し、来年度から一般公開予定。</p> <p>③④ シニア向け投影として星空ゆうゆう散歩を4、8月を除く毎月実施した。乳幼児向けの「ベビー&amp;キッズアワー」は感染症対策のため中止した。</p> <p>⑤ 小中学校等の団体利用を受入れ、各学年に応じた学習投影を実施した。</p> <p>⑥ 5月に河原郁夫展、10月にオーロラ写真展を実施した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>引き続き感染症対策を行った上で、利便性向上とプラネタリウムの有効活用が課題。</p>	<p>● 来館者に飽きさせないように毎月テーマを変えた番組や子ども向け新番組を制作し、投影したことを評価する。</p> <p>● 引き続き感染症対策を行った上で、プラネタリウムの有効活用が求められる。</p> <p>● ①については、「テーマを変えた一般向け番組の製作」を計画し、「10作品の製作」実績と捉えられるが、具体的な実績の数字が見えにくい（計画も同様）。</p> <p>● 各種の企画が、感染症の状況とも勘案の上、概ね計画に沿って実施されているものと評価する。</p> <p>● 制限の多い中、写真展などを着実に実施している。新番組を制作するなど、新たな活動も顕著である。</p> <p>● フュージョン新番組など新たな取組により来場者にアピールできたことは評価できる。客層からしても乳幼児を連れたユーザが多いので、「ベビー&amp;キッズアワー」に関しては対策を講じた上でぜひ再開を検討してもらいたい。</p> <p>● 感染対策を引き続き徹底し、投影回数を増やしてほしい。</p> <p>● 新番組の投影は、関心を高めるためにも良い試みであったと思う。感染対策をしながらも学習投影を実施できたことは、子どもたちの学びの保障にもつながった。</p> <p>● 天文の話題は年齢を問わず魅力的で、プラネタリウムを持つ当館の強みである。</p> <p>● コロナ禍の対応をとり、小中学校等の団体利用を受入れ、各学年に応じた学習投影を実施したことは有り難かった。</p> <p>評価：B</p>

(3) 科学展示

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●実験・観察の方法や成果を発信する展示による体験学習の充実</p> <p>●21世紀子どもサイエンス事業で活用している「ワクワクドキドキ玉手箱」(以下「玉手箱」)の紹介</p>	<p>①科学工作物展示</p>	<p>①教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介するパネルと実物の常設展示コーナーとして、6点中3点の作品展示を更新した。令和2年度に続き、展示の手法として多摩区と連携したARコンテンツ(拡張現実)を活用し、工作物の動画も掲出した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>展示内容のアーカイブとして、来館者が閲覧できる掲示を用意する。</p>	<p>●実際の工作物の展示紹介などは来館者も興味を湧くと思われる評価できる。</p> <p>●引き続き、来館者へのフィードバックができると良いと感じました。</p> <p>●現状の計画に対して、実績は評価しにくいですが、50%の展示を更新したことを上記評価とした。</p> <p>●教育普及事業内容とも関連した展示が、新たな手法の導入とともになされていると評価する。常設展示のみならず、適宜、SNS上での紹介も、来館できない利用者にとっては有益と思われるので、今後の検討材料としてほしい。</p> <p>●ARがどのように活用されたかを発信してほしい。</p> <p>●昨年度も同じ意見を述べたが、科学工作の実物やARを利用した新たな取組は評価できる一方で、対象ユーザである子どもたちがARを利用するにはハードルが高いと思われるので、別途モニタなどを設置して、実験のプロセスや動的变化を見せられると良いと思われる。</p> <p>●「ワクワクドキドキ玉手箱」の改良・普及については今後も期待したい。</p> <p>●コロナ禍においてワークショップの実施があ難しい中、工作物の動画を掲出したことはよかったと思う。</p> <p>評価：B</p>

\* アストロテラス： 市民が集い、スタッフと参加者が同じ星空を共有し、星空の美しさと宇宙の神秘を体験するための、観測機材を備えた天体観望用の施設

\* 21世紀子どもサイエンス事業： 川崎市で活動する民間団体・産業・学校と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業

\* ワクワクドキドキ玉手箱： 市民に科学の楽しさを伝えるための実験・観察の手引きや道具が詰まったツール

2 教育普及事業

展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

(1) 自然体験

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●より多くの市民・利用者が生田緑地の自然に関心を持てるような、多様な内容・形態の観察会や自然教室を実施</p> <p>●活動フィールドを拡大し、多摩川水系をフィールドとした自然教室を開催</p> <p>●展示解説やワークショップ等を通じて、市民の交流と学び合いを実現</p> <p>●バックヤードツアーや一日学芸員体験等、解説やワークショップメニューの内容を深める</p> <p>●フィールドワークの学習効果を高める学校支援プログラムを開発・運用</p> <p>●ボランティア制度導入についての検討</p>	<p>①生田緑地観察会</p> <p>②サイエンス教室（自然分野）</p> <p>③自然観察（地層・林）</p> <p>④総合的な学習の時間支援</p>	<p>①新型コロナウイルス感染防止対策のため11月まで中止した。また、これまで当日申込制で参加者数に定員を設けていなかったが、コロナ禍を踏まえ、定員を設け、事前申込制の縮小開催で12月から再開し、計6回を実施し、参加者は延べ43人であった。</p> <p>②自然分野のサイエンス教室は、モグラや地層をテーマにした観察会を含む教室等を計5回実施し、参加者は延べ48人であった。自然分野のサイエンスワークショップは計7回を実施し、参加者は延べ212人であった。</p> <p>③地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを、計27回、延べ2,287人に対して実施した。また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校8校が利用した。林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として、計5回、延べ344人に対して実施した。</p> <p>④生田緑地の自然をテーマに、総合的な学習の時間として課題解決学習の支援を計2回、延べ227人に対して実施した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した上で、対策内容やガイドラインを注視しつつ、安全なイベント運営を継続する。</p>	<p>●一般向けの生田緑地観察会や地層や林の観察会などではできるだけ定期的に引き続き実施し願いたい。今後も自然分野のサイエンス教室やワークショップも参加者が増えていくことを期待する。</p> <p>●新型コロナウイルスの感染拡大を受け、11月までの間、事業を中止せざるを得なかったが、その後、感染対策をしながら、概ね、計画通り実施することができた。</p> <p>●コロナ禍の中での各事業の展開は評価できる。ただ、実際の参加者については、今後、数字自体の評価はこれまでの単純な比較は困難になることが想像される中、回数でカバーするなどの方策が必要かもしれない。</p> <p>●③と④は学校教育支援であるが、博物館の立場上、それ以前に実施すべき独自の普及事業があるはずで、独自の知見や成果に基づく自然観察会などを企画、実施してほしい。</p> <p>●制限が多い中で工夫して取り組んでいる。</p> <p>●依然としてコロナ禍の厳しい状況ではあるが、観察会やサイエンス教室が対策を講じた上で実施できたことは評価できる。</p> <p>●生田緑地観察会を再開できてよかった。様々な体験活動を感染拡大防止対策を徹底し、今後も継続してほしい。</p> <p>●取組の中でも直接体験を伴うものについては、価値の高いものと認識している。感染状況を踏まえながら、取り組めたことは評価する。</p> <p>●依然としてコロナの影響が大きい中、できる限りの活動を行っている。</p> <p>●コロナ禍の状況は引き続きと思われるが、その中でできることを模索しつつ取り組んでいることは、評価できる。</p>
		達成度：3		
				評価：B

## (2) 天文体験

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●教員や児童生徒が自らプラネタリアムの学習番組を制作・投影できるプログラムの実現</p> <p>●専門家による講演や市民参加型の講座の開催等を通じて、市民の学習・交流事業を継続・発展</p> <p>●プラネタリアムの星空演出と、より多彩な芸術との融合の実現を目指した、連携先の開拓や演出手法の開発</p> <p>●星空を身近に感じ、広く宇宙に親しむことのできる事業の展開・充実</p> <p>●科学館の調査研究成果の天文学習への活用</p> <p>●プラネタリウム番組制作ソフトを市内全小中高等学校に配布し、プラネタリウム番組制作を支援</p> <p>●プラネタリウムを児童生徒が制作した番組を発表できる場として活用</p> <p>●ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援</p>	<p>①アストロテラス公開</p> <p>②星を見るタベ</p> <p>③特別観望会</p> <p>④天体観察講座</p> <p>⑤プラネタリウムワークショップ</p> <p>⑥天文講演会</p> <p>⑦天文サポーター研修会</p> <p>⑧プラネタリウムイベント投影</p> <p>⑨かわさき星空ウオッチング</p> <p>⑩サイエンス教室（天文分野）</p>	<p>①アストロテラス公開は密集を避けるため平日のみ、モニタ上での太陽観察を実施。</p> <p>②星を見るタベは定員を制限するため事前募集とし、接触感染防止のためのフィルターを使って観察するなど、感染症対策を徹底して実施した。なお、緊急事態宣言等に伴う本市行政運営方針に従い、13回が中止となった。</p> <p>③特別観望会は、科学館からの観測条件等が良くないため実施しなかったが、月食、金星食を観測しSNS上で情報発信を行った。</p> <p>⑤小学生を対象にプラネタリウムワークショップを開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めることができた。発表会を参加者の家族向けに実施した。</p> <p>⑥外部講師と科学館職員によるミニ講演会を6回、プラネタリウムを活用した外部講師による天文講演会を1回実施した。延べ参加者数は159人。</p> <p>⑦定期的に天文サポーターの研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行いサポーターの資質を向上させた。また、星を見るタベ参加者への配布資料の作成を行い、天体観察会を充実させた。</p> <p>市民活動団体によるプラネタリウムでの投影発表会を行った。</p> <p>⑧東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートを2回実施した。ドーム映像を活用したオーロラ上映会を開催した。アンケートからはいずれも高い満足度が得られた。</p> <p>⑨学校等の依頼を受けて移動天文車による出張観望会を実施した。主催者に感染症対策への協力をお願いした上で対応した。</p> <p>④⑩ミニプラネタリウムの工作や夜間の天体観察など天文分野のサイエンス教室を7回実施し延べ61人が参加した。</p>	<p>感染症対策を行った上での事業運営の他、オンラインでの教育普及事業などを充実させていくことが必要。</p>	<p>●コロナ禍の中で講演会やコンサートなども実施し来館者の増加に努めたことを評価する。</p> <p>●コロナ禍での制限要因が多い中での実施を上記の評価とした。他の事業同様、計画に対する評価が困難である。また、経年比較も必要である。</p> <p>●コロナ禍に伴う制約はあったにせよ、その条件下で多様なプログラムを実施したことに加え、職員独自のオリジナルの企画も多く含まれ、その努力を評価したい。</p> <p>●さまざまに工夫した活動を実施している。オンラインでの活動の充実を期待する。</p> <p>●昨今、オンライン配信の環境は随分と普及したと考えられるので、SNSだけではなく、天体観測のリアルタイムオンライン配信などの機会も検討してもらいたい。</p> <p>●感染症対策を徹底し、イベントや観察会を継続して実施してほしい。天体観察会はオンラインを利用しての実施も考えてほしい。</p> <p>●コロナ対策をしながら、多くの工夫した取り組みは評価する。</p> <p>●小学生対象のワークショップ、プラネタリウムコンサート、オーロラ上映会などが高く評価できる。</p> <p>●東京交響楽団とのコラボレーションなどを今後も実施してほしい。</p>
		達成度：3		
				評価：B

(3) 科学体験

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●多様な年齢層に向けた科学教室の開催 ●気軽に楽しめるサイエンスショーや、年齢や学習段階の異なる人々が共に学べる交流・学習イベントの実現 ●玉手箱や科学ボランティアを活用して、理科の好きな子どもや科学に明るい市民を支援 ●科学ボランティアの活動を支援 ●民産学官の連携を強化し、多様な人々の出会いと交流を生み出す科学イベントを開催 ●教材開発や学習支援プログラムの開発 ●ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援</p>	<p>①ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室 ②サイエンス教室（科学分野） ③サイエンスワークショップ（サイエンスショー）を含む ④かわさきサイエンスチャレンジ ⑤科学サポーター研修会 ⑥子ども創意くふう教室 ⑦出前教室 ⑧ゆうゆう広場科学実験教室 ⑨科学記念講演会 ⑩かわさきぶりんフェスティバル（科学フェスティバル）</p>	<p>①実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を委託先の科学市民団体との協働にて実施した。38回実施し、計1,196人が利用した。 ②③未就学児から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室を年間29回、サイエンスワークショップを62回開催し、参加者数は累計約2,500人を超えた。多くの科学講座は、市民団体との協働で運営した。 各科学講座（サイエンス教室・サイエンスワークショップ等）は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、定員数を半数以下に削減し、参加者や講師との距離を確保、整理券による入替制など、利用する市民の目線に立った安全対策を徹底した上で募集・準備をし、開催した。 ④「かわさきサイエンスチャレンジ」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を運営委員会にて検討し、開催準備を進めていたが、年度前半の感染状況等を踏まえ、運営委員会事務局の判断により令和3年度の開催は中止となった。 ⑤「科学サポーター研修会」は、研修生による実践研修を館内イベントに変更することで、実践的な研修になるよう計画した。研修会修了生から科学市民団体へ所属するボランティアの育成が実現できた。 ⑥小中学生を対象とした連続講座として12月から1月にかけて5回シリーズにて開催し、延べ49人が参加した。 ⑦科学館職員が指導する科学分野の出前教室の依頼・実施はなかった。 ⑧川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間24回開催した。 ⑨⑩開館50周年事業として11月に記念科学講演会と科学フェスティバルを開催した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した上で、対策内容やガイドラインを注視しつつ、安全なイベント運営を継続する。地層学習キットの貸出がさらに周知できるように引き続き、学習支援を行う。</p>	<p>●コロナ禍の中で感染防止に工夫しながら多くの各科学講座やワークショップを実施したことを評価する。引き続き科学サポーターの育成を望む。 ●来年度は「かわさきサイエンスチャレンジ」ができることを願っています。 ●コロナ禍に伴う制約はあったにせよ、その条件下で多様なプログラムを実施したことを評価したい。当館での科学分野は教員出身者（指導主事）が中心となって担当していることから、各種実施に当たっては教育的効果の検証を意識し、その一端が調査研究成果につながることを期待したい。 ●協働が機能していることが評価される。 ●依然としてコロナ禍の厳しい状況ではあるが、感染予防対策をしてワークショップや実験教室を着実に実施できたことは評価できる。また、実験キットの貸し出しなど、引き続き科学館のリソースを利活用できるように施策を進めてもらいたい。 ●引き続き、感染対策を徹底し、各教室を実施して、子ども達が科学にふれあえる機会を提供してほしい。 ●出前授業などは、利用側も控えることがあったかと思うが、感染対策を講じながら実施できるとよいと考える。 ●困難な状況下でも多くの実験教室やワークショップを開催できたことは、館員の努力によるものである。 ●コロナ禍において実施を模索しながら取り組んでいる姿勢を感じる。</p> <p>評価：B</p>

\*アストロカカー： 当館が所有する移動天文車の愛称。望遠鏡、ディスプレイモニター等を搭載し、市内学校等で観察会を行う。

### 3 調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との間には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残すような雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとして都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。

また、科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行います。

#### (1) 自然分野

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●調査テーマの設定や発表方法の検討</li> <li>●職員と調査ボランティア、研究機関、自然調査研究団体等多様な主体との協働による調査の実施</li> <li>●既存調査の継続と調査対象の拡大の検討</li> <li>●学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、地域の自然を継続的に調査・分析し、研究成果を公開</li> <li>●職員の専門性を高め、展示や学習プログラム等の博物館活動に反映</li> </ul>	<p>①ムネアカハラビロカマキリ調査（既存調査の継続と調査対象の拡大の検討）</p>	<p>①生田緑地の外来生物調査として、外来種のムネアカハラビロカマキリと在来種のハラビロカマキリの生息状況を調査した結果、生田緑地ではムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの置き換わりの傾向はみられたものの、完全な置き換わりには至っていなかった。調査結果については、紀要第32号で公表する。</p>	<p>外来種による置き換わりの傾向の程度を知るために、調査を継続し、データを蓄積する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外来種のムネアカハラビロカマキリ調査結果をまとめ市民に公表してください。</li> <li>●調査を継続し、データを蓄積することについて理解しました。</li> <li>●中長期的な取組の中、計画において①のみであるのは、館の研究計画として、問題がないか。なお、実績については、具体的な記述がなく、評価できない。</li> <li>●現時点で成果物の内容を閲覧できていないため、仮の評価として述べる。再々指摘済みだが、当該種の習性から、そのサンプリングとともに、個体群動態の定量的評価は困難と考えられる。いかなるサンプル数のもとに、その結論を導き出したのかは疑わしい面がある。自然担当学芸員の専門は哺乳類であるという。ごく最近、小型哺乳類の新たなトラップが開発されたと聞いている。中長期的取組の諸項目にある通り、そうした最新の手法導入による専門調査の発案はないのか。三分野共通ではあるが、当館紀要は査読制ではなく館内でのピア・レビューの見込みもないことから、内容のクオリティ担保に難がある。分野別あるいは分野によっては、外部査読制を導入したほうがよい。</li> <li>●テーマの広がりを期待する。</li> <li>●計画では、調査対象の拡大の検討となっているが、どのように調査対象を拡大するのか、拡大することによって明らかになると予想されるのはどのようなことなのか年報からは確認できなかった。</li> <li>●ムネアカハラビロカマキリの調査だけにとどまったのは少々残念であるが、調査結果の公表が待たれる。同じ昆虫でも、子供たちに人気のあるグループ（チョウ、トンボ、甲虫類など）を新たにテーマとして追加してはどうか。</li> <li>●研究の成果を中学校でも生徒に紹介できると、研究協力者を広げられるのではと思った。</li> </ul>
		<p>達成度：3</p>		<p>評価：B</p>

## (2) 天文分野

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●調査の成果の蓄積と市民・利用者への還元</p> <p>●ときどきの天文現象に合わせた調査を実施し、プラネタリウム番組に反映</p> <p>●学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、市域でみられる天体を継続的に観測</p> <p>●職員の専門性を高め、プラネタリウムや展示・学習プログラム等の博物館活動に反映</p>	<p>①市域の星の見え方調査</p> <p>②観測による天体の調査研究</p>	<p>①夏季と冬季にデジカメを使った市民参加による市内での星の見え方調査を行った。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、肉眼での観察を新たに取り入れることとし、ひとつの星座で1~5等星が確認できるはくちょう座を観察する手法を考案し実施した。調査結果は紀要に公表する。</p> <p>②月食、金星食の写真撮影による経過の記録、惑星の写真撮影などを行い、観測結果を紀要に公表する。 太陽表面の観測を継続して行い、これまでの観測データを解析、紀要に公表する。</p> <p>達成度：3</p>	<p>星空調査にはより多くの市民が継続的に参加できるように広報と啓発が必要。</p>	<p>●市域の星の見え方調査結果や月食、金星食の写真など紀要だけでなく、HPなどで市民に公表することも考えてください。</p> <p>●労力がかかりますが、星空調査に多くの市民が主体的に参加できるようになることを期待しています。</p> <p>●実績については、具体的な記述がなく、評価できない。</p> <p>●現時点で成果物の内容を閲覧できていないため、仮の評価として述べる。多くの教育普及事業を実施する中で、いくつかのテーマの調査研究事業を実施し、それらの成果を適宜公表したことを評価する。</p> <p>●市民参加に向けた今後の更なる取り組みに期待する。</p> <p>●今年度はどれくらいの市民参加があったのか、年報からはデータが不明であるため、概要でも良いので明らかにすると良いと思われる。</p> <p>●調査結果の公表に期待する。</p> <p>●ひとつの星座で1~5等星が確認できるはくちょう座を観察する手法を考案したことは評価できると思う。</p> <p>評価：B</p>



(3) 科学教育

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●研究成果を蓄積し、21世紀子どもサイエンス事業を中心とした科学教育普及事業へ反映</p>	<p>①玉手箱の改良・新規開発</p>	<p>①地層学習キットの新規開発を行い、効果の検証としてサイエンス教室を開催した。生田緑地での地層観察と、学校利用を想定したキットを併用した科学講座の様子と教材の効果について、まとめ紀要第32号に掲載する。実際に貸し出しを行った小学校8校に、教員向けのアンケートを実施し、活用に関する具体的な意見を集めた。</p> <p>達成度：3</p>	<p>地層学習キットの利用拡大は継続しつつ、資料収集の玉手箱データ化と連動して、さらにブラッシュアップする教材・テーマの方向性をまとめている。</p>	<p>●地層キットを新規に開発したことを評価する。今後はさらに利用拡大を図ってください。</p> <p>●さらにブラッシュアップする教材・テーマの方向性をまとめているということなので、楽しみです。</p> <p>●実績については、具体的な記述がなく、評価できない。</p> <p>●現時点で成果物の内容を閲覧できていないため、仮の評価として述べる。多くの教育普及事業を実施する中で、新規キットの開発に加えてアンケートを含めたその検証を行い、科学分野での調査研究としてそれらの成果を公表したことを評価する。</p> <p>●キットの評価をわかりやすい形で発信することを期待する。</p> <p>●小学校などの利用者のフィードバックをふまえ、引き続きキットのブラッシュアップを図ってほしい。</p> <p>●子どもたちにとっては、実際に「見る」こと「触る」ことが大事である。さらに良いものへとなることを期待している。</p> <p>●調査結果の公表に期待する。もしも館員のどなたかが科学教育系の学会や研究会に属しているのであれば、その学術雑誌に発表しても良いのではないかと。</p> <p>●貸し出しを行った小学校8校に、教員向けのアンケートを実施し、活用に関する具体的な意見が、玉手箱の改良・開発につながることを期待する。</p> <p>評価：B</p>

4 収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。  
データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

(1) 自然資料

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●収蔵資料のより効果的な活用</p> <p>●GBIF等国际機関への資料情報の提供</p> <p>●研究機関への資料の貸し出しについて検討</p>	<p>①収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）</p> <p>②GBIF等国内外機関への資料情報の提供</p>	<p>①資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類4点、鳥類22点、爬虫類1点、昆虫255点、植物292点の計574点を新規に作製した。 また、資料の分類・整理として、新規作製の昆虫標本255点のうち47点について電子台帳登録後、同定作業を行い、既存の寄贈資料の昆虫標本6,693点のうち1,333点について電子台帳登録を、704点について電子台帳登録後、同定作業を行った。</p> <p>②地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネット（S-Net）に昆虫の標本データを1,800点を提供した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>今後も収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料収集を継続する。また、整理できた資料の情報公開を継続する。</p>	<p>●資料の収集保存に努力したことを認める。今後も継続を望む。</p> <p>●今後も現在行っている資料収集を行い、情報公開を継続することについて理解しました。</p> <p>●当初より、今年度は昆虫標本のみの電子台帳化をめざしたのではないのであれば、電子台帳化されたのが、昆虫標本だけ、というのは適切でない。</p> <p>●全博物館事業の出発点となる収集活動の言及がないが、標本作成点数は単純に多いとは言い難く、今後一層の増加を期待する。</p> <p>同定自体は作業仮説ではあるものの、一定の同定を終えたのちに台帳登録を行うのが通例であるが、それが逆転しているのはいかなる理由か？ また、専門性が不十分な体制の中で、同定の信頼性はいかに担保されているのか？台帳登録後の情報公開は、館外のプラットフォームであるGBIFの他に、館独自の展望が明確ではない。</p> <p>●今後も着実な活動を期待する。</p> <p>●資料の整理、標本作製、データ提供および公開など、着実に進められている点は評価できる。</p> <p>●剥製と標本化は地味だが重要な仕事なので、充実に努めていただきたい。またその電子台帳登録も、可能であれば「NPOかわさき自然調査団」以外のアルバイト等を用いて急ぎ完成させてもらいたい。同定作業も外部に依頼することを考えてはどうか。</p> <p>●地道な作業であると思うが、引き続き進めていかれることを期待する。</p> <p>評価：B</p>

## (2) 天文資料

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>● 収蔵資料のより効果的な活用と公開</p> <p>● プラネタリウム番組や解説資料のアーカイブスの作成</p>	<p>① プラネタリウム番組の制作時に収集した資料、素材のアーカイブ化の実施</p> <p>② 天文学史的資料の整理・保存</p>	<p>① 太陽、星雲星団等、観測データの整理保存を行い、プラネタリウム投影、展示等に活用した。また、番組制作時の資料を整理するとともに、今年度制作した一般番組10本分の素材、データの保存を実施した。</p> <p>収集保存した資料、映像等はプラネタリウム解説の他、ポスター、リーフレット等の素材として活用した。</p> <p>② 富田氏・箕輪氏資料等、天文学史資料約6,000点についてリスト入力済み、うち1,044点は目録登録済み。引き続き資料の整理、リストの作成を行い、同時にデジタル化を行う。</p> <p>達成度：3</p>	<p>資料の効率的な整理と有効活用が課題。</p>	<p>● 収集した資料や映像の整理保存とプラネタリウム投影の際に有効活用したことを評価する。</p> <p>● ①の後半部分は、収集保存事業ではなく教育普及事業の範疇である（同様の事例は以前にも指摘済み）。②の「リスト入力済み」「目録登録済み」とは、いかなる状態か外部からは不明である。情報公開に向け、紙媒体の目録であれば、紀要あるいは特別書誌の体裁での出版が考えられるが、具体的な展望の提示を望む。三分野共通ではあるが、電子出版の場合は印刷製本費が掛からないので、その分量には制約がない利点がある。今後の検討材料とされたい。</p> <p>● 収集物を外部から活用しやすくするための工夫が必要である。</p> <p>● 収集した資料やデータは有効活用されることが望ましいので、デジタルデータ化もふくめて引き続き活用方法を検討してもらいたい。</p> <p>● 貴重な資料の有効活用を期待している。</p> <p>● 天文学の資料保存に関しては専門ではないが、適切な作業だと思われる。</p> <p>● 資料やアーカイブスが市民が容易に利用できるようになることを期待する。</p> <p>評価：B</p>

(3) 科学教育資料

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●科学実験教室に関するノウハウを整理・保管・共有化</p>	<p>①科学実験データ共有化</p>	<p>①科学実験教室ごとに提供される計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、実践事例集（2月末時点で59件）として冊子にまとめた。現在24種類ある実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の収容している物品の電子化を令和元年度から取り組み、内容物のデータ化を完了した。</p>	<p>実験キットの物品管理データと連動して、実験内容や指導方法について運用する市民団体と連携して集約していく。</p>	<p>●整理した科学実験教室報告書などは今後、有効活用を図ってください。</p> <p>●実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の収容している物品の電子化を令和元年度から取り組み、内容物のデータ化を完了したことは評価できる。</p> <p>●実践事例集として冊子にまとめた努力は評価されるが、それらが将来にわたっていかに利活用されうる状態にあるのかが不明である。例えば、紀要誌上でその概要に触れておくだけでも、職員内外に関わらず後の世代への継承（再検証を含む）が可能となるであろう。物品の電子化、内容物のデータ化とあるが、それらもまた、いかに利用できるものであるのかが不明である。</p> <p>●キットの活用事例を収集し公開していることは評価したい。</p> <p>●実践事例集として冊子にまとめたことは評価できる。収集した資料やデータは有効活用されることが望ましいので、デジタルデータ化もふくめて引き続き活用方法を検討してもらいたい。</p> <p>●冊子にまとめたことが評価できる。</p> <p>●現在24種類ある実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の収容している物品の電子化を令和元年度から取り組み、内容物のデータ化を完了したことは評価できると思う。</p>
		<p>達成度：3</p>		
				<p>評価：B</p>

5 ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開します。多様な団

(1) 展示・企画

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●市民や研究機関・企業との共同企画展の開催等、パートナーシップによる事業を実施</p>	<p>①プチロボで競争しよう ②FIELD MUSEUM</p>	<p>①神奈川県立青少年センターと協働し、「プチロボで競争しよう 川崎大会（18名）」を11月に開催した。</p> <p>②専修大学ネットワーク情報学部2年コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症に対応した形で「FIELD MUSEUM：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン展」を開催した。感染防止の工夫として屋内外でワークショップを展開し、当日は250名の来館者が参加した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>近隣大学のカリキュラムのさらなる充実のため、科学館イベントの見学や広報の充実等、連携を深めていく。</p>	<p>●近隣大学などと共同企画展示に努力したことを認める。 ●感染防止の工夫を行い、屋内外でワークショップを展開し、250名の来館者が参加したのは、評価できる。 ●具体的な実績として何が、どれくらい実施されたのか明確でない。年報の記述も同様である。 ●各種連携、共済事業も重要ではあるが、地域博物館独自にまずなすべき使命や事業が前提としてあるので、その根幹部分を割り込まないよう、今後も適切な配分で行なってほしい。 ●近隣大学・センターとの連携をさらに広げてほしい。 ●展示会イベントだけではなく、そのプロセスにおいても双方にメリットがある形での連携を模索できると良いと思われる。 ●連携事業を推進することでのよい効果があったと評価する。 ●特に大学との協働イベントが高く評価できる。 ●協働して取組は評価できると思う。</p> <p>評価：B</p>

(2) 調査研究・収集保存

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●各団体や機関が保有する資料の相互提供や情報共有の仕組みづくり</p>	<p>①川崎市内の生物調査</p>	<p>①「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と連携は以下の通り。川崎市域の生物調査および資料収集、標本作製について、延べ820人（植物班354人、野鳥班291人、シダ班66人、昆虫班61人、水辺調査班48人）と協働で実施した。                      これまでの調査結果を科学館職員との共著で紀要へ公表する。                      科学館50周年に刊行した一般向け普及用冊子「川崎のいきもの」に関わる企画展「川崎の生きもの」では解説パネルや写真の準備にあたり、連携協力した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>今後も市民協働を継続するために連携を深めていく。</p>	<p>●調査研究結果は紀要だけでなく、市民に生田緑地観察会などでも報告してください。                      ●「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と連携し、科学館50周年に刊行した一般向け普及用冊子「川崎のいきもの」に関わる企画展「川崎の生きもの」を準備したことは評価できる。                      ●市民団体との連携は重要だが、専門家集団ではないことは常に留意すべきで、いかなる場面や状況に際しても肝心の博物館事業そのものが「素人の仕事」に陥らないよう、学芸職員がプロたる指導的役割や主体性を発揮し続けねばならない。                      ●協働した市民へのフィードバックを見える形にしてほしい。                      ●市民調査団体と連携協力して進められ、紀要や冊子にまとめられたことは評価できる。                      ●「川崎の生きもの」に関わる活動が評価できる。                      ●調査団と協働できたことは評価できると思う。</p> <p>評価：B</p>

## (3) 学習支援

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●教職員、ボランティア団体、科学館の協働により学習プログラムを開発・実施する体制の構築</p>	<p>①職場体験・職業インタビューの実施</p> <p>②中学校連合文化祭開催への協力</p> <p>③教員研修会の実施</p> <p>④教員社会体験研修の実施</p> <p>⑤社会教育職員初任者研修の受入れ</p> <p>⑥川崎市職員職場体験研修の受入れ</p> <p>⑦川崎市小学校理科優秀作品展</p> <p>⑧川崎市中学校理科優秀作品展</p>	<p>①職場体験・職業インタビューは、新型コロナウイルス拡大防止の観点から中学校からの要請は令和2年度に続き激減したが、代替として市内学校への出張講話やリモートによる職業インタビュー、時間短縮での科学館見学など、コロナ禍での職場体験を実施できた。</p> <p>②川崎市中学校連合文化祭理科部門は、今年度の北部会場として協力した。コロナ禍をふまえた会場設営、プラネタリウム鑑賞、表彰式への協力を行い、当日は70名の生徒・教員が参加した。</p> <p>③④⑤⑥コロナ禍の影響により中止になった教員研修もあったが、川崎市総合教育センターとの共催で天体観測研修会（12名参加）や横浜国立大学との現職教員CST養成講座（13名）を実施することができた。市職員向け研修では、10月に社会教育職員初任者研修として30名、11月に職員職場体験研修として3名を受入れ、施設概要や業務について解説を行った。また、2週間の博物館実習を実施、10名の大学生を受け入れた。</p> <p>⑦⑧「川崎市中学校理科優秀作品展」を開催した。館内の壁面を利用し、生徒の理科自由研究作品の中から優秀作品7点を展示した。「川崎市小学校理科優秀作品展」は、小学校科学作品展の中止に伴い、開催を中止した。</p>	<p>コロナ禍での職場体験や教員研修など、新たな取組が見えた。今後も共催連携として、学校団体等の要望を踏まえ、工夫した対応に努める。</p>	<p>●教員研修など今後も科学館を広く知ってもらうために継続して行ってください。</p> <p>●コロナの影響に対応して、市内学校への出張講話やリモートによる職業インタビュー、時間短縮での科学館見学など、コロナ禍での職場体験を実施したことは評価できる。</p> <p>●各種の取り組みは重要ではあるが、地域博物館がなすべき使命や事業が前提としてあるので、その根幹部分を割り込まないよう、今後も適切な配分で行なってほしい。その際は、単なる場所貸しではなく、博物館施設としてそこに介在、果たすべき事柄は何かを考慮しながら関わるべきであろう。</p> <p>●制限が多い中、着実に実施している。</p> <p>●依然としてコロナ禍の厳しい状況ではあるが、研修会や実習などの機会を設けることができたことは評価できる。</p> <p>●教員研修や連携事業等の取組の継続と充実に期待する。</p> <p>●コロナ禍であるので研修等の中止はやむを得ない。地域での教育・学習支援の重要な拠点となっていることが伺える。</p> <p>●小中学校への協力に感謝いたします。</p>
		<p>達成度：3</p>		<p>評価：B</p>

(4) 地域振興・生田緑地内

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●地域の団体が生田緑地を活用して企画・実施する事業を支援</p> <p>●生田緑地の自然等に関する知識や科学館のノウハウを活かした専門的な支援を実施</p> <p>●生田緑地内施設間における情報共有化による、運営の効率化</p> <p>●広報媒体の共同利用や共通情報のデータベース化等、広報活動の連携</p>	<p>①図書館、区役所等との共催事業の実施</p> <p>②大学・地域団体との共催事業の実施</p> <p>③生田緑地サマーミュージアムの実施</p> <p>④日本民家園との「七夕」「お月見」事業の共催等、生田緑地内他施設との共催事業の実施</p> <p>⑤生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上</p>	<p>①10月2日に多摩図書館と連携したプラネタリウムでのお話し会を実施した(参加者100人)。多摩区民祭はコロナ禍のため中止となった。</p> <p>②大学・地域団体との共催事業は、コロナ禍のため中止となった。</p> <p>③例年夏に指定管理者と生田緑地内3館等が連携し、それぞれの魅力を活かした事業を展開するサマーミュージアムはコロナ禍の影響により中止となったが、3月にスプリングミュージアムを実施する予定。</p> <p>④民家園と連携した七夕体験を実施し、科学館では七夕特別投影と短冊配付、民家園では七夕飾りとミニ笹配布を実施した。お月見では民家園と共同制作した動画「お月見を楽しもう!」を制作、両施設のHPで公開した。また、民家園で両施設学芸員による「お月見トーク」と科学館でお月見特別投影を実施した。</p> <p>⑤指定管理者と各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行った。</p> <p>回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設及び藤子・F・不二夫ミュージアム等と連携しクイズラリーを実施した。また、3月に予定しているスプリングミュージアムにおいて、生田緑地内各施設を回遊する企画を予定している。</p> <p>達成度：3</p>	<p>コロナ禍のため中止となった事業が多かったが、感染拡大防止対策を徹底しつつ、更なる回遊性の向上など来館者数の増加につながる企画を実施していく。</p>	<p>●コロナ禍の中ではあったが、生田緑地内の各施設や多摩区との連携した企画を実施したことを認める。</p> <p>●地域連携の一つとして、国際交流や多文化理解、国際理解の視点で何かできないか検討してみたいか。</p> <p>●各種連携、共催事業も重要ではあるが、地域博物館独自にまずなすべき使命や事業が前提としてあるので、その根幹部分を割り込まないよう、今後も適切な配分で行なってほしい。指定管理者とも、単なるイベントのみならず、生田緑地の自然環境を活かした連携事業が発案できるのではないか。民家園との連携あるいは共催事業については、普及事業以外の博物館基幹事業で実施できる事柄がありそうである。</p> <p>●中止事業が多い中、民家園との連携による七夕・お月見体験は特筆に値する。</p> <p>●中止となった事業が多かったようだが、引き続き地域との連携を模索していただきたい。</p> <p>●今まで行ってきたイベントがコロナ禍で中止になると、復活させる時のアピールに今まで以上に力を入れないと集客力が落ちてしまうので、新しい連携や広報を考えてほしい。</p> <p>●親子で楽しめる企画は、科学館への来館にとつながると思う。</p> <p>●中止になったイベントは残念であったが、地域の中で積極的に活動していることは高く評価できる。</p> <p>●コロナ禍において実施を模索しながら取り組んでいくことを期待します。</p> <p>評価：B</p>



6 管理運営  
運営方針

(1) 管理業務

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●指定管理者との連携による効率的、効果的な施設運営の推進</p> <p>●開館時間の弾力的な運用の実施</p> <p>●館の魅力向上を図る一方で、経営的な視点による効率的、効果的な収支計画の実施</p> <p>●協議会実施による、館運営、事業の専門性、透明性、公平性の確保</p> <p>●ボランティア登録制度の設置</p> <p>●関係団体との連携による運営</p> <p>●震災・風水害等各種災害を想定した危機管理マニュアルの作成と周知</p> <p>●危機管理マニュアルに沿った、適宜の研修及び訓練の実施</p> <p>●生田緑地及び緑地内施設と連携した災害対策の実施</p> <p>●運営基本計画に基づく事業の執行、及び適正な進行管理</p> <p>●多様な視点を反映し、定量評価を盛り込んだ自己評価の実施</p> <p>●諮問機関等による第三者評価の実施</p> <p>●年報・ホームページ等による評価の周知</p> <p>●館の持続的な成長に向けた、単年度評価結果の次年度事業計画、指標等への反映</p>	<p>①市と指定管理者との円滑な連携による管理業務</p> <p>②川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会の開催</p> <p>③収蔵資料の保全を含む災害時の危機管理</p> <p>④専門部会での適切かつ効率的な進行管理</p>	<p>①今年度は第2期指定管理の4年目にあたる。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底した上で、万全の体制で来館者を迎えるとともに、学芸業務等についてもコロナ禍においても来館者数が増加するよう、開館50周年記念事業も含めて市と指定管理者が連携し取り組んだ。</p> <p>②事業計画、中間報告、事業視察、事業報告等のため年4回専門部会を開催し、当館事業の進捗管理を適切に行った。なお、年度末に開催している事業評価についての審議は、コロナ禍の影響によりオンライン開催とした。</p> <p>③昨年度作成した地震・火災等災害発生時の初動対応マニュアルを踏まえ、館職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、10月に地震訓練を実施し、3月には火災訓練を予定している。実施後には更なる来館者の安全・安心を確保できるよう、参加者の意見をまとめ課題等を整理して必要に応じてマニュアルの更新を行った。また、引き続き館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行った。</p> <p>④委員への事業報告等が円滑にできるよう、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行い、当館事業の進行管理を行った。</p> <p>達成度：3</p>	<p>第2期指定管理の最終年度である来年度に向けて、より連携を強化しながら円滑な館運営を行っていく。</p>	<p>●コロナ禍の中で50周年記念事業も含めて来館者の増加に努めたこと評価する。また防災訓練等を実施し、災害時の危機管理を考慮した運営を行ったことを認める。</p> <p>●新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底した上で、来館者数が増加するよう、努めたこと、また、開館50周年記念事業も含めて市と指定管理者が連携し取り組んだことは評価できる。</p> <p>●③については、以前から指摘しているが、地震・火災災害発生時の対応マニュアルにおいて、博物館の根幹である収蔵資料に関する部分の策定が不可欠である。県博物館協会や他館での事例を参考に、準備に努めてほしい。</p> <p>④の事業報告につき、委員からの指摘や質問（それらは、初歩的あるいは基本的な事柄も含まれる）に対し、必ずしも円滑でない場面があった。館の基幹事業について、館内で恒常的に情報共有やディスカッションに努めてほしい。</p> <p>●今後も円滑な運営を期待する。</p> <p>●依然としてコロナ禍の厳しい状況ではあるが、感染防止対策やオンラインによる部会などの管理体制は評価できる。</p> <p>●館のスタッフによる努力を評価する。</p> <p>●開館50周年記念事業も含めて市と指定管理者が連携し取り組んでいることはよいと思う。</p> <p>評価：B</p>

(2) 科学館の魅力を高めるサービス展開

中長期的取組	令和3年度主な計画	令和3年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●各種出版物の発行 ●多様な媒体を活用した広報活動（一部指定管理業務） ●生田緑地全体の広報活動と連動した効果的な情報発信（全部指定管理業務） ●職員の資質の向上（一部指定管理業務） ●館全体の魅力向上に向けた、カフェテリア・ショップのサービス向上（一部指定管理業務） ●展示室以外（実験室や学習室等）のスペースを活用した学習サービスの提供 ●学校団体の利便性に配慮したサービスの提供（全部指定管理業務） ●他施設との連携によるサービスの向上（一部指定管理業務） ●利用手続きにおける利便性の向上（一部指定管理業務） ●バリアフリーの実現とユニバーサルデザインの導入 ●外国人利用者に配慮した案内情報の提供</p>	<p>①広報業務を担う指定管理者と学芸部門の積極的な連携・協力による広報計画 ②当館関係者の連携による魅力を高めるサービス展開 ③障害者・外国人等多様な利用者への配慮</p>	<p>①市内小学生全家庭へ配布した科学館だより、ウェブアクセシビリティに対応したホームページ、FacebookやTwitterのSNSによる情報発信を積極的に行い、Twitterフォロワー数等を増やすことができた。今年度は開館50周年であったことから、市政だよりや教育だよりかわさき等で大きく取り上げられ、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行った。 また、引き続き、家庭でも科学館の魅力に触れてもらえるよう、「おうちで楽しむデジタル科学館」をホームページに掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページアクセス数：588,649件（R2 383,790）</li> <li>・Facebook投稿リチ数：14,776件（R2 19,914）</li> <li>・Facebookいいね数：1,381件（R2 1,345）</li> <li>・Twitterフォロワー数：4,271件（R2 3,524）</li> </ul> <p>※2月末の数値 ※投稿リチ数：ミニ情報を随時発信するスタイルのため、コンテンツを投稿した時にそのコンテンツを見てくれた人数を指標として採用。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底の上、適切な案内及び接遇などマンパワーの確保と併せ、ショップ及びカフェにおける商品の種類や品揃えを常にリサーチするなどサービスの向上に資することにより、館全体の魅力向上を図った。</p> <p>③バリアフリー関連設備・用具、表示の保全と研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図った。</p>	<p>今年度の50周年の盛り上がり来年度以降も継続できるよう、より関係者との連携を強化しながら、当館の魅力を積極的に発信していく。</p>	<p>●今後も魅力あるホームページ作りや科学館だよりなど情報発信に努力して来館者の増加につなげてください。 ●外国人の利用であれば、国際交流センターに来ている外国人住民や留学生がお役に立てるかもしれません。今年度は、留学生がグループで岡本太郎美術館の魅力についてレポートを作成し、市民向けに発表をしています。 ●再三指摘してきた点であるが、SNSでの情報発信が積極的になされてきたと言えるかは疑わしい。定型の画面の繰り返しが多く、その他の多様な発信に乏しい。SNSに過剰に注力しなくともよいが、一般市民の閲覧窓口でもあることから、工夫や努力の余地があるはずである。「おうちで楽しむデジタル科学館」についても上と同様で、展開や工夫の余地があるはずである。HP上での告知の文面（説明）などに、誤記などが散見される。職員一同での確認を徹底してほしい。 ●特にオンラインでのアピールを期待する。 ●Web, Facebook, TwitterなどSNSを活用して情報発信を積極的に行っていることは評価できる。情報の性質によっては、SNSも用途を上手に分けて活用することを検討しても良いと思われる。例えば、写真に関してはInstagramに上げてそれをTwitterにシェアしたり、動画に関してはYoutubeにチャンネルをつくり、それをFacebookやTwitterにシェアするという方法もあるだろう。神戸青少年科学館などの取り組みは参考になるかもしれない。 ●今後も広報に力を入れてください。 ●広報の仕方を工夫し、広く周知するよう努めたことは評価できる。今後も足を運んでみたくなる科学館の魅力の後方の充実を図ってほしい。 ●広報活動が昨年よりさらに向上したと感じる。館の展示・活動に加え、生田緑地を訪れる人たちのためにカフェを充実させることも現代では重要な広報活動だと思えたので、今後さらなる充実を期待する。 ●コロナ禍において、ホームページにより魅力を伝える取組をしていることは評価できる。</p>
		達成度：4		
				評価：B